

2006年7月21日

報道各位

JFN (全国FM放送協議会) 事務局
TOKYO FM 編成制作局

「JFN賞2006」各賞決定！

「企画部門」大賞

TOKYO FM 「SCHOOL OF LOCK! ～不登校リスナーの生きる音～」

「CM大賞」

TOKYO FM 「流星の贈りもの」(120秒)

TOKYO FMをはじめJFN (全国FM放送協議会) 加盟38局が、放送活動並びに新規事業の活性化と質的向上を目指し、社会的影響力や企画力からJFNグループ全体の発展に大きく貢献した局を表彰する「JFN賞」各賞が決定いたしました。

本年度「JFN賞2006」の表彰式は7月20日、TOKYO FMホールで行われました。今年の「企画部門」大賞には、TOKYO FM「SCHOOL OF LOCK! ～不登校リスナーの生きる音～」に決定。ラジオ離れが言われている10代リスナーに本気で向き合った画期的番組であると同時に、番組とweb・携帯電話などと連携したクロスメディア企画で、これからのJFNの方向性を示唆する成功事例として高く評価され、今回の大賞受賞となりました。

また、優秀賞にはfm osaka「サワディー・プーケット・フェスタ イン パトンビーチ」、K-MIX「津波および気象警報の自動放送システム」がそれぞれ選ばれました。

そして「CM部門」の最優秀作品に贈られる「CM大賞」は、TOKYO FM制作の「流星の贈りもの」(120秒)、第1部門最優秀賞(20秒以内)には、FM秋田制作の「個別指導の明光義塾 個別メニュー」(20秒)、第2部門最優秀賞(20秒以上)には、TOKYO FM制作の「時報の女」(90秒)がそれぞれ選ばれました。

今回の審査について審査委員長の小野田隆雄氏が、「今回は良い作品が大変多かったと思います。TOKYO FMが大賞を受賞するという結果となりましたが、その他地方各局の土地に息づいている風土や歴史から見えてくる人情、文化が表れたCMや番組が、よりラジオの価値を高めていくということ、今回の選考で感じました」と締めくくり、授賞式が終了いたしました。

各賞の結果は次の通り。

◎ JFN賞・企画部門

「JFN賞・企画部門」は加盟各局がエントリーした年間の放送・事業・営業活動事例をJFN運営委員長、副委員長、各分科会長から成る「JFN賞選考委員会」が選定。今年はエントリー27社42件の中から、先に開催された選考委員会で以下の各賞が決定した。

■大賞

TOKYO FM SCHOOL OF LOCK! ～不登校リスナーの生きる音～

JFN全局の課題である、10代のラジオ離れ。彼らに対して本気で向き合った画期的番組。ラジオ初出演のパーソナリティ、やまじげ校長とやしろ教頭が、リスナーと同じ目線で一緒に考え、志向が多様化している次世代リスナーの心をしっかりとつかむことに成功した。また、番組とweb・携帯電話などと連携したクロスメディア企画で、リスナーのメディア接触可処分時間の多くを獲得することにも成功した番組。これからのJFNネットワークの方向性を示唆する成功事例として高く評価。

■優秀賞

fm osaka サワディー・プーケット・フェスタ イン パトンビーチ

スマトラ島沖地震で甚大な被害を受けたタイ・プーケット島に日本からの観光客を再び誘致すべく、ビーチでの野外ライブイベントを実施。このライブイベントへの集客のために日本からのスペシャルツアーを企画し、その告知にJFNネットワークの力を最大限利用することで、約3,000人の邦人観光客の誘致に成功した。また、タイ政府観光局からも高く評価され国際親善に貢献し、新聞、TV、インターネットでも大きく取り扱われた。プーケットのイメージアップに大きく貢献したことも高く評価。

■優秀賞

K-MIX 津波および気象警報の自動放送システム

放送事業者の使命である緊急避難放送への取り組み。津波警報発令後、これを直ちに自動的に放送することを可能にしたことにより、非常災害時にも力を発揮するメディアとしての位置づけを明確にした。また、この津波及び気象警報の自動放送システムは、合理化・省力化によるコスト削減をも実現し、非常災害時の音声放送に期待される機能を、ローカル局に於いても提供可能とした功績を高く評価。

■奨励賞

F M北海道 賞品の売れ行きが大幅UP!

イオンショッピングセンター「コレット・アレット探検隊」消費者を動かすモニター型宣伝施策

大型ショッピングセンターイオンの販促展開として、消費者モニター「コレットアレット隊」にショッピングセンター内テナントの商品を携帯メールで取材してもらい、HPで紹介する企画。消費者モニター＝イオンユーザーという位置づけを明確に打ち出し、その消費者を動かすことで、テナントショップのスタッフも積極的に対応にあたり、テナント側の参画意識が高まり、スポンサーから大きな評価を受けた。また、自局が開発してきたweb、フリーペーパー、番組などを最大限活用し、イオンの販促に新しい話題と売上向上に貢献したことを評価。

■奨励賞

F M沖縄 観光立県オキナワ～^{ちゅ}美ら島 その未来～

ポッドキャストCMバンクサーバーAuto Editing CM Bank Server(=エイブス)事業

環境美化に対する自覚を促すため、ラジオドラマ「観光立県オキナワ～美ら島 その未来～」を制作。沖縄県出身アーティスト、タレント、パーソナリティー、行政関係者、局アナなどが総出演し、番組放送後は、県内の中学校がOAされた内容を教材に活用するなど大きな反響を呼んだ。また、JFN38局で展開している「アースコンシャス アクト・クリーン・キャンペーン」のスポンサーであるコスモ石油の協賛を得てポッドキャスト配信され(CM挿入)、さらに「沖縄のゴミをなくす本」の出版に至った。ゴミが観光立県沖縄の社会問題となる中、環境美化への取り組みを地域社会へ大いに啓蒙した点を高く評価するとともに、ポッドキャスト番組のCMを自動的に差し替える技術を開発(特許申請中)した点と併せて高く評価。

■奨励賞

F M福井 全開! 福井あばさけビジネス道

県内で活躍するベンチャー起業家を番組パーソナリティーに起用し、これまでにないローカルビジネスを生み出すラジオプログラムに取り組んだ。番組展開に留まらず、県内初のLLP(有限責任組合)を設立、番組オリジナル商品の開発・販売などを通して、リスナーのみならず、県内外のメディア、起業を目指す若者達に大きな反響を呼んだ。地元経済界との連携、リスナーを巻き込んだ地域密着の番組として高く評価。

※あばさけ＝「やんちゃな」の福井弁

■特別賞

TOKYO FM 「ザ・ライン～僕たちの境界線」

日本とアジアの友好ムードが高まる中、どうしても超えられない一線「ザ・ライン」がある。アジアの中で日本人が嫌われる理由を、番組からの意見を押しつけるのではなく、多角的な視点でインタビューと音楽で調和させ、聴く者に世界平和、人類共栄を考えさせる作品となっている。第1回日本放送文化大賞準グランプリ、第32回放送文化基金賞ラジオ番組賞を受賞し、民放FMラジオの制作力の確かさ・高さを世にアピールできた点を評価。

◎JFN賞・CM部門

JFN加盟38社のCM制作の向上とCMを通じて地域社会の文化に貢献することを目的として優秀CM作品を表彰するのが「JFN賞・CM部門」。

今年の審査対象は2005年4月1日から2006年3月31日までの間、JFN加盟各局が自社で企画または制作、放送したCM。斬新な発想や演出と技法、地域性、公共性、影響力（CM効果）が審査基準となる。エントリー総数120本のなかから大賞のほか、部門各賞（20秒以内、21秒以上）が選出された。審査委員長の小野田隆雄氏（コピーライター）、弘兼憲史氏（漫画家）の2名の特別審査員をはじめ、JFN各局のCM制作担当者38名（但し自社CMには投票不可）により公開審査会が行われ、以下の各賞が決定した。

【JFN CM大賞】

TOKYO FM 「流星の贈りもの」（KDDI株/120秒）

【第1部門 最優秀賞】※20秒以内（エントリー数=54本）

FM秋田 「個別指導の明光義塾 個別メニュー」（明光義塾/20秒）

【第2部門 最優秀賞】※21秒以上（エントリー数=28本）

TOKYO FM 「時報の女」（大塚製薬株/90秒）

【奨励賞】

○地域ブロック賞

- ・北海道・東北 AIR-G' 「時計台の鼓動」（札幌ホンダグループ/40秒）
- ・関東・甲信越・静岡 RADIO BERRY 「静かなひととき」（(社)栃木県自動車整備振興会/20秒）
- ・中部・北陸 FM AICHI 「子守歌」（学校法人 河合塾/70秒）
- ・近畿・中国・四国 f m o s a k a 「悪質商法」（大阪市市長室・広報課/60秒）
- ・九州・沖縄 FM長崎 「急だな」（Jスポット/20秒）

○出演者賞：FM沖縄 「カーランドとよみ売りつくしセール」（沖縄トヨタ自動車株/20秒）

○コピー賞：FM AICHI 「ウィスキー」（自社PRスポット/20秒）

【制作者審査員賞】

TOKYO FM 「時報の女」（大塚製薬株/90秒）